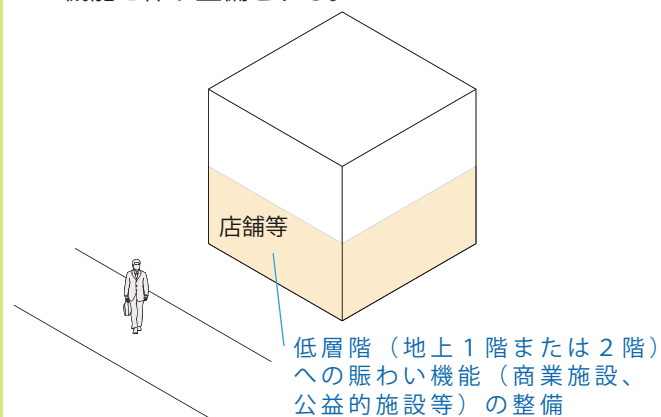
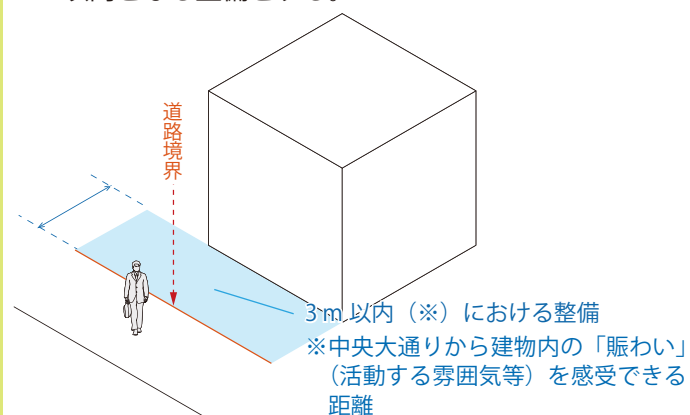


### ① 中央大通りから感受できる賑わいの創出

- 建築物の低層階（地上1階または2階）に賑わい機能を伴う整備とする。

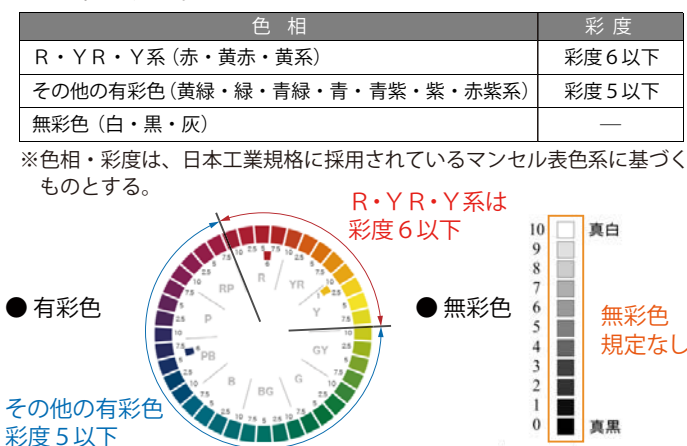


- 道路境界から建築物の壁面までの距離が概ね3m以内となる整備とする。

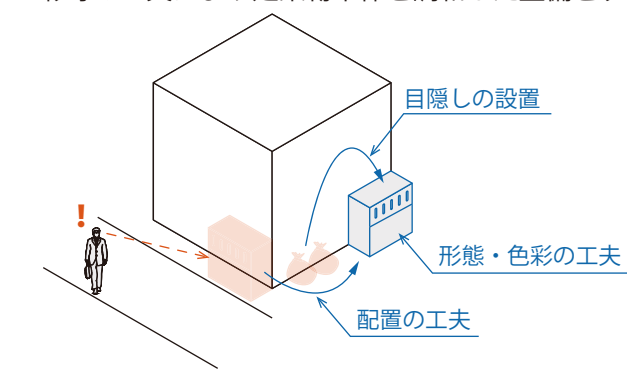


### ② シンボルロードとして魅力ある街並み景観の創造

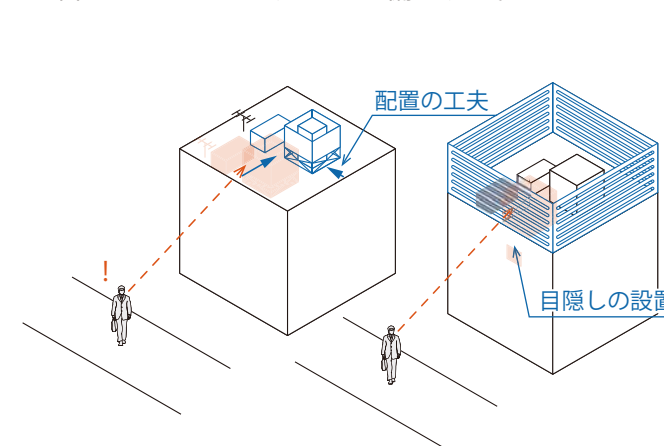
- 外壁・屋根の色彩は、マンセル表色系を用いた色彩基準とする。



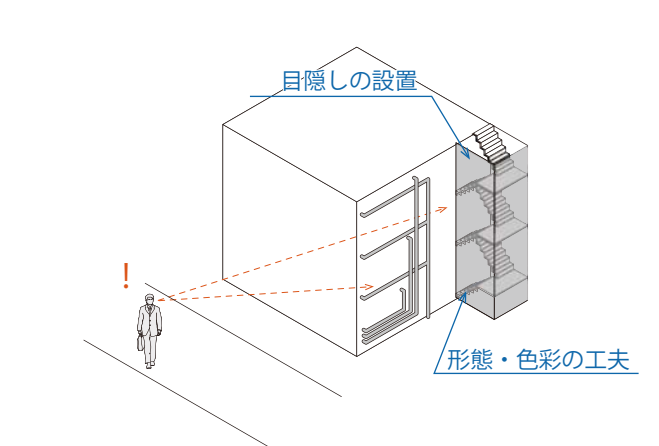
- 附属施設（給水室、電気室、ごみ置場、倉庫等）は、中央大通りから見えない場所に設けるか、形態・色彩等の工夫により建築物本体と調和した整備とする。



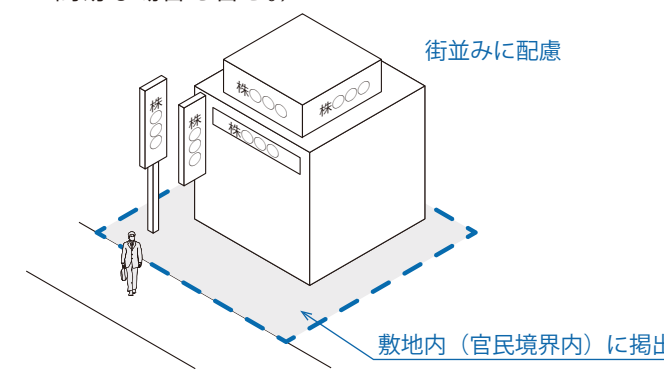
- 屋上設備は、公共の用に供する場所から見て目立たないように配慮した整備とする。



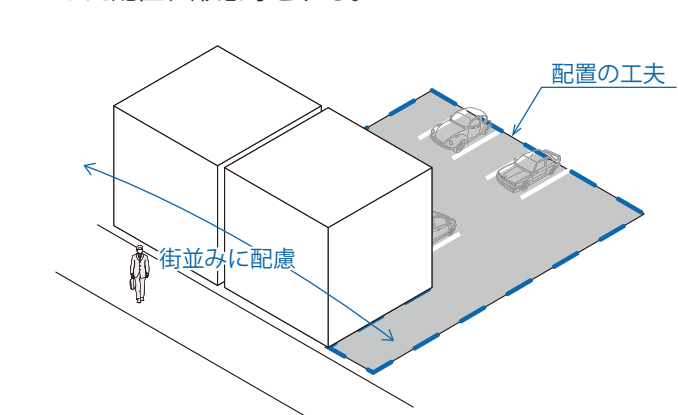
- 屋外階段、配管等は、形態・色彩等の工夫により建築物本体と調和した整備とする。



- 屋外広告物は、街並みに配慮した形態・意匠とし、敷地内（官民境界内）に掲出する。（移動可能な簡易な場合も含む。）

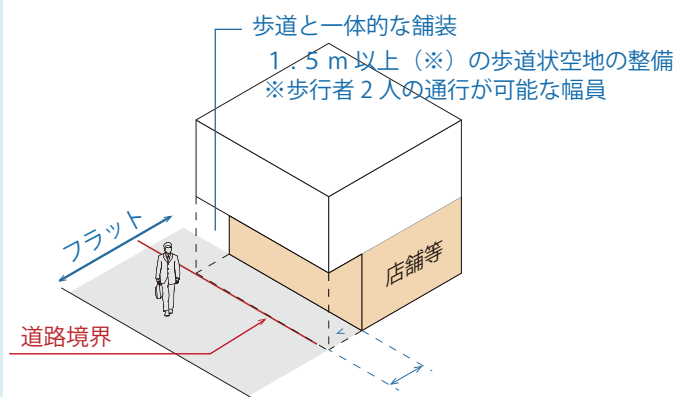


- 駐車場は、中央大通りから見て目立たないように配慮した配置、形態等とする。



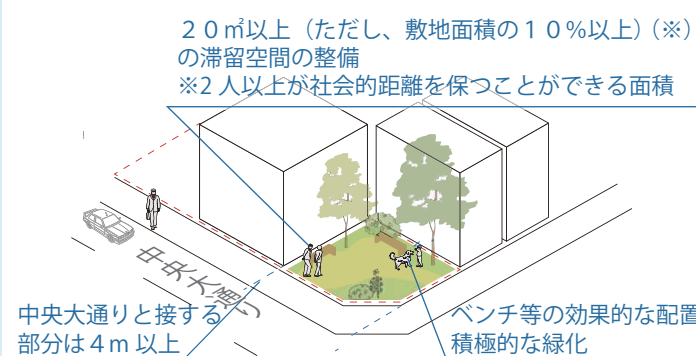
### ③ 快適な歩行空間の創出

- 道路境界から建築物の壁面を概ね1.5m以上後退させ、これにより生じた敷地部分を「歩道状空地」として整備する。（2階以上の建築物の場合は、1階部分のみの壁面後退も可とする。）
- 歩道状空地は、誰もが歩道と一体的に通行できる空間とするため、歩道に沿って舗装化する。
- 歩道状空地は、原則として敷地が歩道に接する部分の全長にわたって整備し、歩道との段差は設けないものとする。



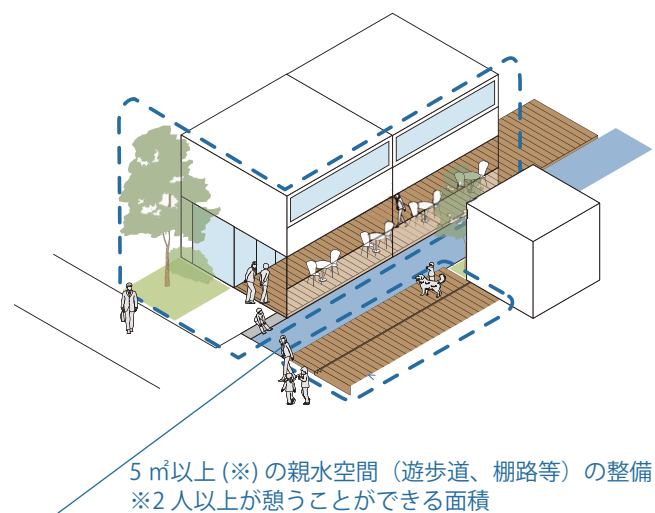
### ④ 憩いと交流が生まれる空間の創出

- 中央大通りと接する敷地の一部を後退させ、これにより生じた敷地部分を「滞留空間」として整備する。
- 建築物の壁面の一部は、原則として道路境界から概ね3m以内となる整備とする。
- 滞留空間の面積は、20㎡以上かつ敷地面積の概ね10%以上とし、滞留空間が中央大通りと接する部分の長さは4m以上とする。
- 滞留空間は、誰もが自由に利用できる広場とするため、空間の機能、形態等に応じてベンチ等を効果的に配置し、積極的に緑化する。



### ⑤ 水辺を活かした親水空間の創出

- 水路（クレーク等）沿いの敷地内（官民境界内）に水辺を活かした遊歩道、棚路等の「親水空間」を整備する。
- 親水空間は、原則として誰もが利用できる空間として整備する。
- 親水空間の面積は、概ね5㎡以上とする。



### ⑥ 自転車利用者に優しい駐輪機能の確保

- 敷地内の後背部等に誰もが利用可能となる駐輪機能を整備する。

